



友愛

題字 前淵 幸信

【理念】 自分を愛するようにあなたの隣人を愛しなさい



社会福祉法人 友愛会

亀岡友愛園

〒621-0251 京都府亀岡市本梅町平松ナベ倉12番地
TEL : 0771-26-2115 (代) FAX : 0771-26-3557

《特別養護老人ホーム》	《デイサービスセンター》	《居宅介護支援事業所》	《ホームヘルプステーション》
TEL : 0771-26-2115	TEL : 0771-26-5432	TEL : 0771-26-0039	TEL : 0771-26-0038
FAX : 0771-26-3557	FAX : 0771-26-3557	FAX : 0771-26-5929	FAX : 0771-26-3557
《亀岡市西部地域包括支援センター》	《高齢者あんしんサポートハウス》		
TEL : 0771-26-0056	京都府亀岡市本梅町平松原谷24-2		
FAX : 0771-26-5929	TEL : 0771-26-2310 FAX : 0771-26-0880		

地域密着型事業 すずらん

〒621-0806 京都府亀岡市余部町中条17番地
グループホーム 小規模多機能ホーム TEL・FAX : 0771-20-2840

はりきり工房ケアプランセンター

〒621-0243 京都府亀岡市宮前町宮川大端12
居宅介護支援事業所 TEL : 0771-20-8382 FAX : 0771-20-7917



機関誌 第五十一号の発行にあたり

(福)友愛会 理事長 内藤 徳男

平素より、当法人運営に関しご理解とご協力ご支援を賜りまして、心よりお礼と感謝を申し上げます。

さて、今日の特徴的キーワードとして、「価値観の多様さ」「人間関係の希薄さ・不透明・不確実さ」などが思い浮かび、様々な領域において、将来が見通し辛くなっています。

しかし、一方で、いつの世も誰もが、「確かなもの」「安心できるもの」を得たいと願っています。

何が正しくて何が間違っているのか、何が良い(ここで何が悪い)ことなのか・・・思いを廻らせて考えて行きますと、思考の迷路に迷い込んでしまいます。

先が見通せない中で、安心して生き抜く知恵はないものでしょうか。

書店で書物を物色していると、「正しいことは伝わらない、楽しいことだけ伝わる」というワンフレーズが目飛び込んできました。その時、「確かにそうかもしれないなあ」と心の中で呟きました。

物事の正誤や善悪について、一つの確かな正解が導き出せない事はあっても、自分が何かのお役に立って周囲の方に喜んでもらえた時に、何とも言えない喜びや感動が込み上げて来た経験を、どなたもきつとされていることでしょう。

人間関係において、支え合う喜びや楽しさを分かち合える事で、「自分はこれでいいのだ!」と思える自分の存在の確かさを確認できるのではないのでしょうか。

「人さまと喜びを分かち合いたい」「人間としてよりよく成長したい」と言う思いは、もしかしたら、何にも勝る私たちの内なる願いではないでしょうか。生き抜くための知恵は、人間同士が支え合い、喜びや楽しさを共有する所に宿っているように思います。

(福)友愛会は、日々の活動を通して、隣人(利用者・地域の皆さま・職員)同士が支え合える関係創りを目指します。

そこで、今回の機関誌では、人間関係の中で喜びや楽しさを分かち合う『楽しさ』、『つながり』、『頑張っている事』、『さりげない日常』などの具体的テーマに関するエピソードを取り上げました。今回の機関誌が、人さまとの関わりを楽しむや頑張る姿を、明日への希望として読者の皆さまにお伝えできれば幸いです。

『共に支え合う喜び』を確かなものに出来るよう、歩みを進めて参ります。



素敵に歳を重ねたい

(福)友愛会 顧問 前瀨 幸信

日本は、今や人生百歳時代に入り、最近よく健康長寿という言葉を目にします。健康寿命とは、日常的・継続的な医療・介護に依存しないで、自分の心身で生命維持し、自立した生活ができる生存期間のことを言います。

丁度、一年前(平成二十九年十一月)に私は突然、「心不全」を発症、緊急入院し命の保障はできませんと言われましたが助けてもらいました。3週間の入院で歩行困難に陥り、主治医より、「心臓の動きは普通の人の2割程度です。心臓病は快復しませんが注意事項を守ればある程度維持できます。」と僅かな希望が持てる言葉を頂きました。体重は20キロ減り、身長は6センチ縮み、ゆつくりとしか歩けなくなり、食べ物飲み込み辛くなり、ペットボトルの蓋が開けられないほど握力も落ちてしまいました。老化現象が一気に現れました。ちなみに私は、次の誕生日で米寿を迎えます。

高齢になっても、自立した生活を続けていくために、栄養バランスを考え、昔の料理しかできませんが、知り合いの料理に詳しい方に教えてもらうようにしています。時には料理を作るのが煩わしい時もありますが、食欲、意欲があるからあの料理この料理を作ってみたくと考えると料理を作るのが楽しくなります。

日記も忘れないように書いています。一日書き忘れると昨日の事が書けなくなりません。

体重・血圧測定、排便、服薬そして散歩は日課にしています。また、この年になってパソコンとメールにも挑戦する事も楽しいものです。これらはすべて、体力維持と認知症予防になると確信して努力の毎日です。

顧みますと、今年、(福)友愛会の認可を受けて四十七年、老人ホーム建設計画を立ててから丁度五十年目に当たります。

聖書に、「願ひ求めなさい、そうすれば与えられる」と。この約束の祈りの言葉を信じて歩んで参りました。

老人ホーム建設に命がけて挑戦する中で、「愛」と「真心」で神は奇跡を表して下さり(福)友愛会が誕生しました。

これもひとえに、多くの方々のご理解、ご協力、ご支援の賜物だと感謝申し上げます。

『自分を愛するように、あなたの隣人を愛しなさい』と言う聖書の御言葉を経営理念に掲げ、これからのこの精神を受け継いでいただきたいと思います。心より願っています。

特集

我がこと

住めば みやこ
(さりげない日暮らしの中で)

昼食も終わった一日の内で一番暑い昼下がり、施設の駐車場の草を引かれるご利用者(Aさん)の姿がありました。「ありがとうございます。暑いですね。」「喫煙所でたばこを吸っていたら、草が気になって、一人引いていたんや。家にいた頃は引いたもんや。自分が毎日過ごしている所は、きれいにしておきたいしなあ。住めばみやこやで。」

以前にも、草を刈っていただいてるところを見かけ、一緒に作業したことを思い出しました。「草も一生懸命生きとるし、かわいそうなんやけど。やっぱり、草ぼうぼうはなあ・・・」と鎌を動かされていました。

また、Aさんは畑の南瓜の下に柔らかい敷物を敷いて南瓜が傷まないようにと丁寧に世話をしています。また、蒞などの山菜を摘んで来て下さったこともありました。



Aさんは、毎日の足踏み体操やラジオ体操にも参加しておられます。そして、「僕は、こんな運動してますのや。」と、転倒しないようにご自分で考え、階段や手すりを使った運動も紹介してくださいます。

Aさんの「住めばみやこや」という想いには『人』だけでなく周りの様々なものへの慈しみと優しさを感じます。ありがとうございました。



サポートハウス
松岡寿子

さりげない日常



日々の日常から喜びを…

すずらんでは、毎年恒例の夏祭り、紅葉狩り、お花見など色々な行事に参加してきました。

特に嵐山のトロッコ列車は利用者様の「乗ってみたい」「行ってみたい」の思いを形にするべく、何度も職員と一緒に計画を考え直しました。当日は、天気もよくトロッコ列車から見える景色はとても綺麗で、利用者様の笑顔はとっても素敵で私にとっても楽しい思い出になっています。

日々の関わりの中では、グループホーム勤務から小規模多機能勤務に異動となり、利用者様との馴染みの関係づくりに奮闘する毎日でしたが、「今日はあるがいたから楽しかったわ」「今度は何をしてくれるかと思ったら楽しみなんや」と声を掛けていただけの事が一番嬉しく、これからも頑張っていこうと思える力の源になっています。



小規模多機能ホーム
すずらん
沖 春菜

出会いの中で

「田舎暮らしでの発見」

東京から二年余り前に引越してきて初めての田舎暮らしの地、亀岡市本梅町にあるサポートハウスで、平成二十九年十一月からお仕事をさせて頂いております。

自然に触れながら生活する知恵と楽しさを、田舎暮らしが長いご利用者さまから教わっています。

東京生まれで東京育ちの私にとって、初めは、新たな発見の日々でした。自宅では、小さな畑で野菜作りをしており、長年花や野菜づくりをされて来たご利用者さまにアドバイスをいただき、水やりや、肥料のあげ方や「きゅうりは伸びすぎない内に収穫した方がよいよ」とか「お茄子は、こうしたほうがよいよ」と、育て方について優しく教えて下さいます。

都会ではほとんど見ないヤマブキ、ミツバ、ドクダミなどの植物の事、田舎暮らしで色々な事を学び、命の尊さを、自然のかかわりの中で再認識し、仕事においては三十名のサポートハウスのご利用者さまに寄り添った関りをして行きたいと思えます。



サポートハウス
坂本 多美子

皆さんとのつながり

「花づくり・畑づくり」

花の苗の購入から地域の方にお世話になり、年に二回玄関のプランターの花植えを、地域の方、ご利用者と一緒に行っています。玄関回りが、「パツ」と華やいで優しい雰囲気にも包まれています。

畑作りは今年で二年目になり畑の土も馴染んできて、野菜作りがしやすくなりました。朝・夕の水やりと収穫はご利用者がされ、今年、収穫できた野菜は、キャベツ、ほうれん草、キュウリ、茄子、南瓜、ジャガイモ、サツマイモ、枝豆、唐辛子など、種類・量とも昨年を大きく上回りました。収穫野菜が食卓に上ります。唐辛子の種取り作業は、ご利用者の生活の一部になっています。



サポートハウス
川村 知子



皆さんとのつながり

「地域カラオケ喫茶交流」

長年やってこられた仕事を、住む環境が変わっても自分の生きがいとして続けておられる方がいらっしやいます。

挽きたてのコーヒーの香りは、かぐわしく不思議と気持ちや和らぎますこの香りと味を「地域の方にも味わって欲しい」とのご利用者からの声が発端となり、平成二十八年五月より「地域カラオケ喫茶交流」が始まりました。

入居前に喫茶店をしておられたマスターを中心に、エプロン姿でお給仕をされるご利用者。カラオケを仕切って次々と声かけをされる地域の方、めいめい自分で出来る事を自分でみつけ、ひと時の時間が流れていきます。



マスターはおつしやいます。「元々、自分はコーヒーが苦手でした。そこで、あまり好きでなかったコーヒーを、自分でも味わえるまるやかな味のコーヒーに創り上げたいたい思いで色々手探りで追求しだすと人が寄って来てくれるようになりました。不思議なものですよ。今は、自分がやってきた事で周りの人に喜んでもらえるのが、嬉しいです。お声が掛ければどこへでも行って挽きたてのコーヒーを点てます。」

と嬉しそうに話して下さいました。

ご利用者、地域の参加者、職員それぞれが、自由に参加し、協力しながら楽しめる時間は貴重です。「もっともっと新しいを増やしていきたい」との思いを胸に、コーヒーが取り持つご縁を益々拡げて行きたいと思えます。



サポートハウス
蔭山 佐代子



偶然の出会い

以前訪問先で起こった出来事です。あるご利用者様の訪問時、一人の女性が集金に来られ「あの、すずらんさんですか？昔私の母もお世話になっていたんです」と私の名札を見て、声をかけてきてくださいました。「すいぶん前なので知っておられる方がおられるかわからないですが〇〇と言うもので」名前を聞いた時はすぐに思い出せませんでした。その女性の顔を見ているとはっ！と思いだし次々と名前や顔が浮かんできました。「私その時いました！」と思わず大きな声が出ました。

「すいぶん前なのに知っている方がおられるなんてうれいす。あの時は大変お世話になりました。本当に助かりました。家族みんな感謝しています。こんなところでお会いして感謝の気持ちを伝えられるなんてびっくりしました」と言っておりました。

亡くなられた方や別の施設へ行かれた方などお別れをした後に家族の方にお会いする事など私はめったにないことだったので、事業所を離れてもこんな風に思っておくているんだと知り、本当にうれしく思いました。



小規模多機能ホーム
すずらん
山田 亜津実



すずらん開設当初から働いていて、その方を知っていて、ご家族の方とこんな風にお話できる時がくるなんて。事業所としての繋がりは終わってしまふけど、ご利用者様や家族様とはこうしてずっと繋がっているのだなと気づくことができました。これからも人との出会いや繋がりを大切にしていきたいと思いました。

のりかかったふねや

亀岡友愛園居宅のケアマネから『力強い近所さん』としてご紹介いただきました北岡さんのお話を聞くことができました。

北岡さんが認知症高齢者とながりができたのは「知ってる人で一緒にクリスマスでも」とお仕事の関係でお付き合いのあった数人のお年寄りに声をかけたのが始まりだったそうです。

北岡さん宅でクリスマス会を喜んでくれた、ご近所さんのお話を親身になって聞いていくうちに、「車に乗るから」「買い物出かけるから」って自然に日常のつながりができたとのこと。

しかし、認知症特有の『もの忘れ妄想』時には「あんた、うちの物盗ったやろう」となじられることもあり、そんな時はやっばり辛かったそうです。

でもね、めげずにその翌日「おばちゃん、何か困ってないか」って行くと、昨日のことはすっかり忘れてる・・・（こんなもんなんかい）。

晩に電話かかってきて怒鳴られることも、「そやなあ〜」と返事して、翌日「おばちゃん、何かあるか」って訪ねると「何もなしよ」って・・・（こんなもんや）。

北岡 強 様

独居の高齢大工さんに北岡さんが、食いち仕事を紹介するのですが、壁をフラットにかっこよく柱を入れないでと注文しても、「柱」をいれてしまふ。

「違うやろ」とどんなけ言うても、「柱」をいれてしまふ。時間はあるけど、なんぼあっても足らんや、でさんから。じいさんも気の毒やしなあく〜と大工さんの思いう出を語られました。

その大工さんを担当する担当ケアマネが困った時には、ご家族の代わりに北岡さんが動いてくれます。大工さんの海外に移住している娘様が帰国した担当者会議の際にも、「あんたをどうするんではなく、あんたはどうしたいんかや」と北岡さんが口火を切り、腹を割ったお話を繋がったそうです。

「〇〇じい、なんかあるか」と北岡さんのあったかいあいさつが聞こえますか。

北岡さん、いつも ありがとう ございます。

記事 五代



頑張っている事

平成二十九年七月から、サポートハウスで『音楽体操教室』を始め出しました。職員さんの声掛けのお陰で、最近では入居者の半数の十五名近い方の参加、そして時には地域の方の飛び入り参加もあります。

リーダーの動きに必死について行こうとされる方、また、自分流のスタイルでされている方と個性豊かです。参加人数が多くなる程、教室中に活気が満ち、皆さんの集中力の高まる様子が伝わってきました。

参加されている方の中には、諦めずにコツコツと続けている間に、ある日、できる様になっているご自分を発見される事があり、体を動かす事が楽しみの一つにとなつて来られているのではないでしようか。

夢中になつてなさっている姿はとても頼もしく素敵に見えます。一人ではできない事でも、大勢の中では大声も出せますし、無我夢中になれる時間帯は、とても幸せなひと時になる事でしょう。



サポートハウス
泉 千栄

体操終了後には「伸び伸びと動いたあとは、身体中が軽くなつて気持ちが良いね」との声も多く聞かれ、私も皆さんから喜びのパワーを頂いております。

平成三十年十一月二十五日開催の「京都・かめおか体操祭」に出場し、日頃の活動を発表させていただきました。

これからも、みんなで笑い合い、楽しみ合い、協力し合いながら出来る健康づくりを目指して行きたいと思っております。

頑張っている事

特別養護老人ホームのお誕生日お祝い

「今日は6月26日です。あつ僕の誕生日や！お祝いしてくれるんですか！嬉しいわ！まだまだ若いですよ、僕は！」ととてもうれしいような〇〇さん。

この企画は、今年4月に主任管理栄養士より「お誕生日をお祝います！」というメッセージが職員に社内メールで配信されてきたときからスタートしました。

この『お誕生日のお祝い』のきっかけになったのは、栄養士さん達が考えた認知症対策からだったそうです。

だれにでも在る「お誕生日」、幼い頃にはプレゼントや御馳走が準備されている特別な日としての思い出があります。

齢をかさねるうち、毎年やってくる恒例のイベントに、そして更に齢を兼ねると、川の流れのよう過ぎ去つてもさほど気にならずですが、やはり「お誕生日おめでとう」と人から声をかけていただく、年とるのはいやだけれども嬉しきものです（私のこころはしっかりと動いています）。

栄養士さんたちも、いつもと変わらない日常（暮らし）に喜びを、それも今日は自分（あなた）が主役なのですよというメッセージから、

そのご利用者さんの「心を動かしてもらいたい」と思ったのです。「お誕生日をお祝いする」という取り組みが始まって数か月たちました。

メッセージはどんどん増えてきました。何よりもご利用者さんの笑顔、うれし泣き、和みの空気感、今日は私の特別な日というご利用者さんからいただく多くのメッセージには、幸せのエッセンスがいっぱいつまっています。そして、私達スタッフが「心を動かしてもらっています」というコメントでした。

今ではお誕生日がまだ先のご利用者さんから「私は、してもらっていない」と催促があるぐらいの関心が寄せられるとのことです。「今日この日を迎えられたことに感謝」を。

ハッピーバースデー！

記事 五代



紙粘土細工、楽しんでいきます

平成三十年二月から、趣味としてやってきました紙粘土細工を通じて、ご利用者と地域の方々のお手伝いをいただきながら交流を図り、一緒に作品造りを行って来ました。

ご利用者が造られたチューリップや大・中・小のイチゴの果実には、緑・オレンジ・真っ赤などの色塗りがされ「あなたのイチゴ、美味しそうやね。」「いや、あなたの方が美味しそうやわ。」と、ご利用者の楽しんでおられる高揚感が伝わってきます。

最近では、複雑なフォルムのバラ造りを、徐々に手掛けられるようになって来ました。花びら一枚一枚を真剣にお造りになり、仕上がった時には弾んだ声で「バラが造れた!!」と、とても嬉しそうでした。

現在、十一月の本梅町文化祭の出版に向けて、ご利用者さま、地域の方々、職員が力を合わせて、昔懐かしい田舎の風景のジオラマ造りにチャレンジしています。



サポートハウス
寺尾登司栄

楽しみながら

ご利用者の方と一緒に、見本を手本にして型紙に合わせて花弁や葉を作り、組んでいきます。好みの色塗り、艶出し、全体の構成など、見本は一つでも、仕上がった作品は様々で、お互いの作品を「いいやん。」「あなたのもいいやん。」と、笑顔で褒めたり、褒められたり・・・と和やかな時間が流れます。

あるご利用者は、ご自分が作られた花を、外出時にプレゼントを持って行かれ、「喜んでもらえたわ。」と嬉しそうに話してくださいました。

これからも、モノづくりの楽しさを皆さんといっしょに味わっていききたいと思えます。



サポートハウス
渡邊 明子



楽しんでいきます

楽しんでいる事

利用者様から、昔の話しを聞き私が知らない色々な事を教えて下さいます。「今の子は知らんからな。」と言いながら、作法の事、遊びの事、恋愛の事、話ながら私たちは：と話す。「そんななんなんか。娘の時もそうやったかいな。そんな話もしいいひんしな。」と言われます。それは私も同じで、祖母や母親とはそういう話をゆっくりする事もないですし身内となると楽しみながら聞けるかなと思うと私はたぶん聞けないと思います。でもこの仕事をさせてもらっているから、身内でない高齢の方と話す機会があり、自分の知らない事を聞く事ができる事私の中の楽しみです。時折、間違った情報を教えられる事もあります。そうすると、他の方から「それは違うで、ないで。」と会話が広がり、私の中ではどれも本当の事なのか分からなくなる事もあります。それが地域によって違う事もあつたりします。

「1つ勉強になったな。」や「1つかしこくなったな。」と言われる毎日楽しく人生の勉強をさせてもらっています。

小規模多機能ホーム
すずらん

坂本 直子



ひとつでも多くの笑顔

友愛園に来て2年が経ちました。ご利用者にはデイサービスが楽しみたいと思つて頂けるよう、毎日頑張っています。自分が子供の頃に遊んだゲームを、ご利用者も楽しめるよう手筈を整え、頭を使いながら笑顔になれる、ちよつと変わったレクリエーションを考えています。

また、高校まで野球をしていました。投手をしていたので、肩周りのストレッチや、当時グラウンドで行っていた体操を、ご利用者と行っています。

例えば、棒を使って肩を右へ左へ：様々な角度へ筋肉を動かす事で……運動する前は届かなかつた左手が！しっかりと棒を握る事が出来ました♪



デイサービスセンター
糸井 雄哉



友愛会 宝 箱 ~Part3~

特養入職 内田 誠子看護師

特養入職 堤 風馬看護師

看護経験30年のベテランさんです。好きなものは「園芸」と「動物」です。今度生まれかわったら「獣医」さんになりたいそうです。内田さんに聞いてみました。

問: 「命ってなんだろう」

答: 「看護師なりたての頃、世の中は無常だと感じた出来事がありました。」

そのあと「命って・・・、運命かな」と答えてくれました。

若い頃はがむしゃらに患者さんにかかわり、走り抜けたような気がします。患者さんを励まして、励まして・・・。

50歳を過ぎた頃から「どうにかなるやん」その人、その人の「生きる姿」に寄り添う、その人の持つている寿命に精一杯尽くすことが私たちの役割です。

人間って気持ちの持ちよう「生きる気持ちを持っていただけるような関わりを」と思うようになりました。

友愛園に入職されたのも何かの「縁」

「縁」も「運」のうちです。どうぞ、末永くです！



入職して三か月、24歳の若者です。幼い頃からお年寄りにかわいがつてもらったそうです。散歩しているお爺さんは、堤少年を見かけると、自転車に乗せて駄菓子屋でお菓子を買ってくれます。はたまた道端でおばさんたちの井戸端会議の環の中に・・・なぜか堤少年は居ました・・・当然、おばさんからももらったお菓子片手に。堤少年の周りにはいつもお年寄りがいるという地域で育った、堤看護師は人懐こい笑顔で昔の思い出を話してくれました。

好きなことは、ゲームとバスケット、好きな食べ物はマクドナルド！普段は実祖母の食事を作って自炊しているから、たまに油っこいマツクがたまらんそうです（体に悪いと知ってはいるものの、若いんだからお許しを）。

夢は彼の名前のごとく、大地を駆け抜ける風のように海を渡り海外に行つて、おしゃれな雰囲気漂うヨーロッパの路地に佇む・・・想像しただけで幸せですと語ってくれました。

この仕事では、色んな知識を深めたい、知らないことをいっぱい知りたい、最近は「介護」のネットニュースを保存し情報を集めていきます。僕も今の事業所で「何ができるのか」、「これだったら

できるかも」と、飛び込んだ介護の世界の可能性を広げられたらと、少し遠慮がちに話してくれました。誰もがその人らしい生活をおくれるように支援する頼もしい専門職が一人増えました。みなさん、どうぞよろしくお願いします。



地域活動 長竹 勇 様

月に1回習字ボランティアで教えに来て頂いている長竹さんにインタビューしました。

問 なぜ習字をされたのですか？

「定年後自分自身がぼけないようにと習字を習い始めました。その後、京都市内のほうで友達がいた施設で習字を教えるようになりました。」

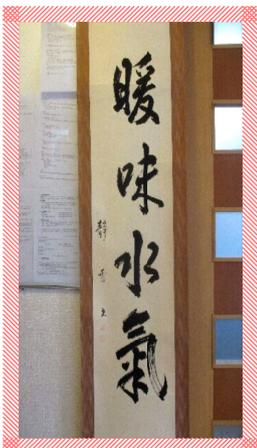
「すずらんを地域の集まりで知り、是非すずらんでもと声をかけて下さいました。」

問 活動をしていて嬉しいことはありますか？

「元気になって喜んでやってもらっている事がうれしいです。」

「1日1回は筆を持つことが大事毎日字を書く事を薦めています。」

「同じ文字でも筆で書くのとパソコン等で書くとは違う。文字に味がでます。」



長竹様の作品



友愛会の宝物 ご利用者K様

サポートハウスの玄関前には、四季折々の花が咲いております。また、裏手の家庭菜園では数種類の夏野菜が実っています。あるご利用者は、この刺すような日差し、酷暑といわれるこの夏でも「水をやらんと可哀そうや」「枯れてしまいうわ」と、毎日毎日欠かさず日課として水やりをされています。その甲斐があつてか玄関の花は色あせず、畑の野菜は勢いを取り戻し、採りたての野菜が皆様の食卓に上ります。

「毎日みてやらんと・・・」と額に汗を浮かべ笑顔で話されます。「土が肝心や。良い土から美味しいものが出来る」「種を播くのも肥料をやるのも一番いい時期があるのや。早うてもあかん、遅うてもあかん。見極めなあかん」と語られる表情は生き生きとし、その方が今まで九十年間コツコツと歩んでこられた生き様を感じ取ります。

ほうれん草は、軟らかく甘く冬場のお鍋にふんだんに使わせて頂きました。じゃがいもはカレーやポトフに、春キャベツは玉になるまで青虫との戦いで一匹一匹取り除いて下さいました。



薬は何にも使わへん。口に入れるものやからな」一つ一つが見事な巻きで三十〜四十個収穫出来たでしようか。採れたキャベツをふんだんに使い「お好み焼き」を提供させて頂きました。畑と台所が直結です。

ご利用者の指導を受け、一緒に汗を流して育てた野菜で調理出来、皆様と一緒に頂く事が出来る。作る側も頂く側も会話が弾み笑顔いっぱいです。

美味しかったわ。また、作ってや」「美味しい野菜を作って頂いて有難うございました」笑顔とありがとうございますの言葉が交錯します。

歳を重ねられてもお好きなものを見つければ、生きがいとし毎日をごさされ、自分が手掛けられた事は自分で最後までやり遂げられる。私達は、素晴らしい方に恵まれ、日々感じ受ける生き方を学ばせて頂いています。

地域の円満宝箱

林さん宅には、ご主人手作りの小さな工房があります(要らないものが、要る物に変身する所)。ご主人は大工時代に身につけた「あじろ編み」を活かした写真立てを、奥さんは独学「和紙人形」と、手作りD2高年齢者さんなんです。

働き盛りは仕事に忙しく、3人目が双子で子育てに忙しく、ご隠居して道の駅巡りに忙しく、年若い今はゆつくりの時間を『あじろ編み』小物と、奥さんの笑顔で幸せに暮らしていらっしやいます。

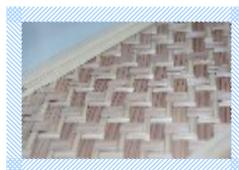
取材中も笑いが絶えずなく、「仲良くです！まだこれからも仲良くやっていかなあ」と和みいっばいででした。

ご夫婦の笑顔と手作り作品です。「ちいさな幸せ」もらいましょう。



林 俊雄・康子様ご夫妻

あじろ編みで作った写真を飾る額



我がこと 『防災』



地域防災活動

サポートハウス亀岡友愛園は、昨年(土)の「亀岡市本梅町自主防災会総合防災訓練」に参加しました。訓練終了後、訓練総括のミーティングを行いました。



訓練総括のミーティング



サポートハウスへの避難訓練



小型ポンプによる放水訓練



消火栓の使用訓練

独居高齢者の避難受け入れ

サポートハウス亀岡友愛園は、平成28年5月に、地元本梅町自治会と避難者受け入れの「申し合わせ」を行いました。

平成30年7月の【西日本豪雨】の時に、初めて2名の避難者の受け入れを行い、【台風12号】で3名、【台風20号】で4名、【台風21号】で4名、【台風24号】で4名の方の一時避難の受け入れを行いました。

サポートハウス開設(平成27年11月)以来、主に防災活動を通して地域とのつながりを探り求めてきた結果、特に高齢の一人暮らしの方に、避難所として知ってもらえ、頼りにしてもらえる存在になりつつあります。

数名の方の受け入れではありませんが、避難者の方々だけでなく、地域のみなさんとの距離が近づいて来たように思います。微力ではありますが、これからも一時避難場所としての役割を果たしていきたいと考えています。



特養豪雨土砂災害避難訓練

西日本を縦断しました今年最強の台風21号の影響は大変なものでした。亀岡友愛園地域でも土砂に巻き込まれてお亡くなりになられた方、被災された方々がいらつしやう『我が事』の認識を持ち、特養で初めて十月に土砂災害避難訓練を実施いたしました。

特養裏山の土砂が崩れそうだという想定で、ご利用者の方を安全な場所へ避難するという訓練です。

訓練に参加したスタッフからは、皆がそれぞれバラバラに動いている昼間という想定では「一番危険な場所はどこ?、どこにだれがいるの?、入浴中の裸のご利用者はどうやって逃げるの?」など、誰が、何処にいてるのかわかって指示するのが大切であるという振り返りができました。デイサービスのご利用者の方の誘導では、マンツーマンで付き添っていても足元がふらつきつまずく危険が伴っていた、安全に誘導するにはという課題も残りました。

『我が事』『丸ごと』天災に備える、意識を変える訓練の積み重ねで、安心安全な地域づくりを目指します。

このたびの台風21号、及び豪雨災害に遭われた方々に謹んでお見舞い申し上げます。できる限り早い復旧を心よりお祈りいたします。



(一山が全部崩れて、大きな石がごろごろと小川を埋め尽くした現場写真)



デイサービス



避難訓練風景

月別 献金者 ご芳名

社会福祉法人友愛会のために用いてくださいと募り献金を寄せてくださった方々のご芳名を月別に報告させていただきます。
平成29年4月～平成30年3月までご厚情をいただいた方でございます。(敬称略順不同)

平成29年4月

阿瀬 安子 前瀬 幸信 京都聖徒教会 村西 伸一 長屋 光行・郁子 なでしこ美容室(株)
(有)P.C.Sベンディング 安倍 恵子 河内 征治

平成29年5月

京都聖徒教会 長屋 光行・郁子 太田勝美・和子 安倍 恵子 前瀬 幸信

平成29年6月

京都聖徒教会 長屋 光行・郁子 山根 芳枝 山脇 さかゑ 佐々木 初代 安倍 恵子
清水 トミコ

平成29年7月

前瀬 幸信 長屋 光行・郁子 京都聖徒教会 栗林 幸子 山内 政美 近藤 和江

平成29年8月

京都聖徒教会 長屋 光行・郁子 稲川 はつを 前瀬 幸信 東加舎納涼大会実行委員会
岡部 友子 安倍 恵子 余部町自治会

平成29年9月

京都聖徒教会 長屋 光行・郁子 本梅町自治会 本梅町民生委員児童委員 八木 等
平田 静男・よし子 京都復興教会 安倍 恵子 前瀬 幸信 京都聖徒教会

平成29年10月

長屋 光行・郁子 前瀬 幸信 安倍 恵子

平成29年11月

なでしこ美容室(株) 山田 勝造・幸子 稲川 はつを 長屋 光行・郁子 西村 加寿子
藤田 抄子 山根 芳枝 宮川 経裕・美智子 清水 潔・宏子 古邨 荘八・一木 千鶴子
桑瀬 勝朗 藤井 ムツ子 京都聖徒教会 安倍 恵子

平成29年12月

京都聖徒教会 蔭山 彰子 丹波新生教会 管 恒敏・洋子 宅間 恒子 安部 洋子
長屋 光行・郁子 松本 正二 樋口 久美子 恵産業(株) 安倍 恵子 本梅町南北老人クラブ
前瀬 幸信

平成30年1月

佐々木 初代 イエローハット亀岡店 京都聖徒教会 山内 政美 森 完朗 安倍 恵子
島本キリスト福音教会

平成30年2月

福知山教会 上原 淳一 京都聖徒教会 前瀬 幸信 安倍 恵子

平成30年3月

角谷 正 京都聖徒教会 安倍 恵子 前瀬 幸信

後援会会員名簿



社会福祉法人友愛会後援会の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。

「友愛」の機関誌を発行して、後援会員の名簿を掲載し、ご報告に代えさせていただきます。

(平成30年11月1日現在 敬称略五十音順)

東 愛子 五十嵐洋子 天野 洋 天野 信子 伊藤望 茨木福夫 今西儀夫 今西光恵
 今村千登士 岩崎純一 岩崎栄子 石橋かおり 植村良彰 浦野とし子 宇田慧吾
 王鞍静子 大石廸子 大西啓造 大西幸子 岡田淳子 岡部友子 大木 悟 小畑 光
 小畑幸代 小畑 義 小畑智恵子 片山清子 片山節子 金谷恵美子 上島滋之
 菅 恒敏 菅 洋子 亀岡聖書バプテスト教会 京都ハリストス正教会婦人会
 木村武司 久保満昭 久保末子 神戸照代 小林 久 小林美矢 近藤和江
 阪口登詩江 佐々木初代 澤野井慶子 塩貝 馨 塩貝咲枝 清水 潔 清水宏子
 清水敬子 清水知子 新開千恵子 杉 萬喜 澄川満喜子 千足創三 千足和子
 千田路子 高塚 勝 高塚節子 高畑恵子 宅間恒子 田中 顕 北村ちづ 玉村光子
 堂本直子 遠山ミチコ 長尾研司 中川紀子 中川みち 永田真一 永田真由美
 中西俊弘 中村いく 中村祥子 中村弘子 仲村 喜雄 西村加寿子 丹羽はるみ
 長谷川すみれ 韓 守信 橋本政志 樋口久美子 人見光雄 平野ふじ江 廣澤悦子
 福嶋明美 藤井ムツ子 藤田抄子 藤野孝雄 前淵博明 前淵美佐子 松岡千栄子
 松本正二 水谷明子 南 勝司 三村幾久子 村上すみ子 村上ヨシコ 森美由起
 森見真次 森見良子 安福美代子 山内敏正 山下ヨシヲ 山田節夫 山田絢子
 山本貴美 山本富美子 力石明子 リンカンリチャード・ベル節子
 新 久雄 石野多嘉子 伊藤真由美 岩本健二 笛吹優希 颯川英宜 大下美和
 岡林美智代 蔭山佐代子 桂 宏美 川勝沙紀 川坂由佳 川村健司 桐原康介
 木下洋子 倉石賢治 栗田一平 五代喜代美 小早川広恵 小森智仁 小森優香
 小林恵子 佐井儀男 坂本直子 澤田尚樹 櫻井ゆう子 塩見和江 柴田一馬
 清水裕子 末次薫 高木純 高坂洋介 高坂晶子 津崎順也 辻井千都勢
 寺嶋浩子 内藤久美子 内藤徳男 中澤妙子 中村美恵 鳴瀬慎太郎 能勢幸浩
 野本誠喜 畑 昌平 東平行広 福庄隆樹 福田朝 福知京子 藤井操 堀越千鶴子
 前淵幸信 前淵功 前淵豊 松尾知恵子 松田裕子 松本理恵 森政肇 森悠依
 山内紀子 山田亜津実 吉田美穂

お見舞い申し上げます

平成30年度は全国で大きな自然災害がありました。

於いては各地で被災されました方々に心よりお見舞い申し上げます。

友愛会 職員一同